



8月11日

ドイツのエネルギー革命の貢献者

ミランダ シュラーズさん

寿都町での講演決定！

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 広報誌 2024年（NO.58号）

再エネの普及と核のごみ最終処分場選定の見直しの経験

アメリカニューヨーク州生まれで、ドイツのミュンヘン工科大学の教授で公共政策・環境・気候変動を専門にするミランダさんは、かつて日本に5年間留学しており、日本語が堪能。「日本が第二の故郷」というほど慕っています。

ミランダさんは、東京電力福島第一原発事故を契機にドイツ政府内に組織された「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会（通称：脱原発倫理委員会）」の委員を務め、脱原発と自然再生エネルギーの普及、そして核のごみの最終処分地選定のための国家諮問委員会の委員も勤めています。町民の会のチラシNO.46, NO.57でも紹介したように、ドイツでは地層処分地選定の失敗から「国民が議論に参画する」ための新たな仕組み作りを行っており、ミランダさんはこの国民参加を促進する組織の共同代表を務めています。そのミランダさんが、寿都町の境遇を懸念し、訪問したいという意向を持っている、そんな知らせが舞い込んだのが今年の冬。なんと、この8月11日に本当に来町してくれる運びとなりました！

ミランダさんは東日本大震災後に何度も日本で講演し、ドイツで自然再生エネルギーへの転換が進んだ背景のわかりやすい解説にも定評があります。自然再生エネルギーの固定価格買い取り制度（FIT）が始まって以来、ドイツの各地では「エネルギー協同組合」を市民が組織しました。



【ドイツ ミュンヘン工科大学 教授】
ミランダ シュラーズ 先生

自然エネルギーへの投資が地域に仕事をもたらし、エネルギーの地産地消が地域づくりに結び付いた話まで、その話題は広範囲にわたります。

そのような観点から見ると、寿都町は公的機関が直営する風力発電にFITが適応され地域づくりの財源としたということから、実はドイツでのエネルギー転換によく似た物事が進んでいたのです。ただ大きな違いは、電気を遠方に販売していて地産地消をしていなかったのです。

核のごみ問題や風力発電を活用したエネルギーの地産地消の動きがある中、ミランダさんの話を聞くことはとても有意義なものになるでしょう。

見切り発車の拳

「本当は手をあげたくなかった」 玄海町・脇山町長の決断を考える

5月10日 佐賀県の玄海原発を有する玄海町が、高レベル放射性廃棄物の最終処分場建設のための文献調査の受け入れを表明しました。ここでは玄海町の現状と、文献調査の受け入れ経緯に問題がなかったのか考えます。

1. 原発マネーに依存した玄海町の現状は？

玄海町の人口は5月末で4910人で原発が立地する自治体としては下から3番目に人口が少ない町です。佐賀県唯一の地方交付税不交付団体であり、町の基金も約200億円になります。過去10年の一般会計を見ても約70億円から90億円に右肩上がりに増加しており、これはふるさと納税を2022年には18億円も集めるまでに増加していることが要因です。100億円に迫る一般会計の規模とは、人口1万人の岩内町の一般会計に匹敵し、**財政的には大きな不安は見えません。**

にもかかわらず、玄海町の人口は右肩下がりに減少しています。誘致された玄海原子力発電所の1号機(1975年10月運転開始)から4号機(1997年7月運転開始)の建設時までは人口を約7千人で維持していました。しかし、原発建設が終わった2000年を過ぎると人口の減少が始まり、これに歯止めがかかっていません。

東京電力の福島第一発電所の過酷事故後、2018年には3号機、4号機が再稼働していますが、1号機と2号機が廃炉となり作業員も減ったことで、顧客を失った飲食業・旅館の組合が地域活性化との起爆剤を求めて文献調査への応募を議会に請願するという状況に至ります。

町の財政は膨張しているのに、民間は衰退し、支援を求めている…。お金があっても地域に回らず、住民と労働者は次々と町を去るという状況に陥っている中で、玄海町は今年4月に人口戦略会議が発表した「消滅可能性自治体」にランクインすることになりました。

②

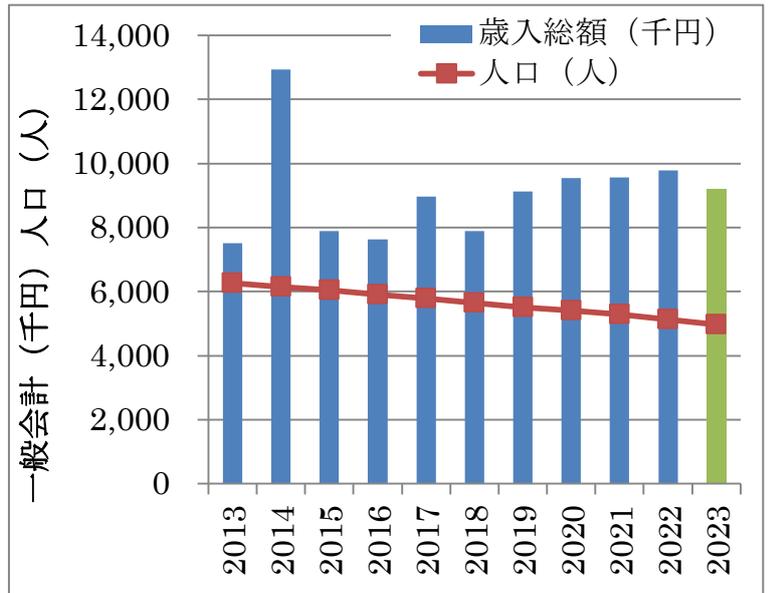


図 玄海町の一般会計決算と人口の推移

財政状況資料集と広報より。2023年のみ当初予算

2. 調査受け入れ手続きに問題はなかったのか

玄海町では飲食業組合、旅館組合と建設業者が中心となる防災対策協議会の3団体が文献調査の受け入れを4/15に町議会に請願しました。

しかし、請願を受理して審議を開始するまでの期間はあまりにも短く、文献調査に疑問をもつ住民が結束して意見をまとめる動きを見せる前の4/26に採択がなされました。この**議会特別委員会では資源エネルギー庁とNUMOだけが意見陳述に招かれた結果**を審議し、請願を採択する意見が多数を占めました。この採択の結果が出た直後に、国の方から玄海町に文献調査を申し入れるという議会と国が脇山町長を板挟みにして悩ませるという攻勢に出ます。

この間、佐賀県の山口祥義知事は、今まで国のエネルギー政策に貢献してきたため新たな負担は受け入れないとして概要調査段階においては反対の意向を表明していました。しかし、**脇山町長は知事と対談することなく経産大臣に直接面会しに行き、その直後に文献調査の受け入れを表明するというスピード決着**に至ります。

つまり、「地層処分の推進側の意見だけを聞いて物事が進んだ」のです。

【まとめ】

国が地層処分を行うに好ましいかどうか色分けした科学的特性マップは、その評価基準が甘いと言われても、厳しいと言われたという話は聞きません。また、国は閣議決定の通り昨年からは全国 102 か所の自治体に地層処分の説明をしに行脚しました。しかしその結果は、国が自ら作成した科学的特性マップでほとんどの土地が地層処分に「好ましくない（将来採掘される恐れのある石炭資源が地域全体に広がっている）」自治体に、しかも首長が調査の受け入れに迷っている最中に調査の申し入れを行うという強硬な方法を取りました。

そのため、玄海町の脇山町長は、調査の受け入れを表明した記者会見にて「玄海町で文献調査を行うことは（中略）最終処分という課題に向き合う上で非常に重要な一石となる」と言う経産大臣からもらった言葉を用いました。しかし、記者に質問をされると「玄海町が一石を投じることでかえって原発周辺自治体の問題になってしまう可能性も感じている」

「玄海町は科学的特性マップの通り最終処分場には向かないと思う」という趣旨の発言もしました。

意見が定まっていないまま「議会とのあつれきができる」と私のまちづくりに支障が出る」という地層処分と関係のない理由で、「本当は手を挙げたくなかった」と本音も別の会見では発言し、議長に苦言を受けてしまう決断に至ったのです。

第 3 の文献調査受け入れ自治体の誕生は、「将来世代に核のゴミの脅威をもたらさない」という大前提を無視した調査喚起に過ぎないものでした。なぜそうなったのでしょうか？

それは、片岡町長が概要調査に向けた住民投票を行う条件の一つとして新たな文献調査地の出現を挙げたからではないでしょうか？ 3つの文献調査地の中では、寿都町だけが、科学的特性マップで「輸送の面でも好ましい」面積を広くもつ調査地となりました。この「好ましくない地域が調査を受け入れる」手法が繰り返されると、寿都町が最終処分場にベスト、という理屈にされてもおかしくありません。このような候補地選定がなされている状態で、町民の皆さんは安心して地層処分を学べる環境になったと思いますか？

資源エネルギー庁:科学的特性マップ



【灰色】 鉱物資源が分布し、将来に資源の採掘に伴う人間侵入の可能性がある所。

【緑色】 輸送の観点からも、地質的に地層処分に好ましい所。

【黄色】 火山の半径 15km 以内、活断層の影響の大きい所、隆起浸食が想定される所、地熱の大きい所、軟弱な地盤等

【参考】

・科学的特性マップ（資源エネルギー庁 HP）

・核のごみ文献調査、苦渋の受託 玄海町長「手をあげたくなかった」（共同通信社）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/9780a4a67de98bec133a4ca88d9caa143e39938d>

・原発推進の佐賀・玄海議長、町長に異例の苦言「責任ある言動を」（朝日新聞デジタル）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/1650fc3d51844559c577d01057acd192f2a85b38>

第二弾 寿都訪問

暮らしとエネルギーを考えるツアー 泊原発、町営風力発電、寺町観光、NUMOを巡る

昨年の10月に続き、今年の5月17日～19日。全国から7人のメンバーが寿都に集まりました。第一弾の高浜原発、大飯原発を巡るツアーに参加した時のメンバーが寿都に行きたい！と第二弾がすぐ決定しました。

泊原発を学ぶ。寿都の地層を学ぶ。NUMO、寺町、風車に分かれて町の人々の声を聞く。朝セリ見学。町民の会とのくっちゃべる会。

季節的にも良い時期で牡蠣、ホタテ、イカ、シラス。お腹いっぱい寿都を感じて貰いました。



風凧にある石垣の水冷破碎岩を

説明する岡村先生

全国から他人事ではなく自分事として考え寿都に来てくれたツアーの仲間たち。心からありがとうございました！

それぞれの感想がまとまり形に出来たらぜひ皆さんにもお伝え出来たらいいなと思っています。



寺町観光・龍洞寺にて写経体験！

3日間同行しましたが寿都に住む私達にも学びの多い三日間でした。個人的には風車の近くに住まれて居る方のお話を聞かせて貰い今まで知らなかった事ばかりで愕然としました。まだまだ学ぶ事だらけに反省したり驚いたり。



記念撮影は弁慶岬でパチリ☆

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

HP : <http://kakugomi.no.coocan.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/106569234530018/>

北海道銀行寿都支店(店番号 304)普通 0481374

ゆうちょ銀行 記号:19070 番号:44246811



2024年 (No.58)